

第4回 保安トップ懇談会（2月26日開催）の概要について

2013年2月27日
石油化学工業協会

最近の保安事故発生状況に鑑み、各社トップによる意見交換と相互啓発の場として1月29日の第3回に引き続き、第4回 保安トップ懇談会を開催致しましたので以下その概要をご報告します。

記

1. 日 時：2013年2月26日（火）13：00－15：00
2. 場 所：化学団体共用会議室（住友不動産六甲ビル 2階A会議室）
3. 出席者：

小柴 満信	J S R(株) 社 長
市川 秀夫	昭和電工(株) 社 長
越智 仁	三菱レイヨン(株) 社 長
谷 直人	三井・デュポン ポリケミカル(株) 社 長
酒井 和夫	三菱ガス化学(株) 社 長
塩崎 和實	太陽石油(株) 副社長
宮本 昭彦	経済産業省 製造産業局化学課長
高梨 圭介	石油化学工業協会 専務理事

(モデレーター)

田村 昌三 東京大学名誉教授

4. 懇談概要：

はじめに、高梨専務理事から、当懇談会の趣旨及び進め方についての説明に加え、第1回目（11月28日開催）、第2回目（12月5日開催）および第3回目（1月29日開催）の概要についての紹介があった。

引き続き、田村名誉教授の議事進行にて6社のトップによる保安に係わる意見交換が行われた。

様々な発言があったが、主なものは次のとおり。

- ・ 最近の重大事故はいずれも①休日、②非定常作業中、③プロセスの原理原則の理解不足 という共通点がある。トラブルがあれば停止し、再稼働には工場長の許可が要るようにしている
- ・ 一方で、連続運転の期間を延ばして、事故が多く発生している非定常状態

を減らすことも大切

- ・ 現場の課長が様々な業務に追われて、忙しくなりすぎていることも原因の一つではないだろうか。本社として現場課長クラスに過重な仕事がかからないような仕事のあり方を進める必要がある
 - ・ プラントの建設が少なくなり、現場の課長クラスが装置内部を実際に見るなどの機会が少なくなっている。また、コンピューター化された結果、考える必要も少なくなっているため、積極的に考えてもらうことを進めている
 - ・ 昔、現場が強力だった頃に作られたマニュアルには暗黙知が記載されていないので、これを見直して分かり易く書き込む必要がある
 - ・ トラブルの解析時に5回の「なぜ」を言わせることによって、プラントの本質を理解してもらうようにしている
 - ・ 大量の定年退職者が出ることに備えて、その期間、2%余剰の運転員を採用し、ベテランから新人への技術伝承に当てている
 - ・ 都市部の工場では新人の運転員の採用が難しいので、地方で採用した運転員に転勤して勤務してもらっているが家庭の事情などで地方に戻ってしまうなど、時間をかけて育てた人材が定着しない。安定的な要員確保も課題
 - ・ 社長がトップとして率先して安全に取り組み、繰り返し、繰り返し安全第一と説くことが大切
 - ・ 工事において、協力会社、施工会社の技術的知識を今以上に向上させることも大事。依頼主会社が協力会社に安全のライセンスを与えるのも一案
 - ・ 社内の論理で考えるのではなく、外部の目で見えて考える事も大事。「安全に対しては、秘密はない」の方針で他社との情報交換をすることも大切
- 最後に、田村名誉教授から本日のまとめとして「トップの強いリーダーシップのもとに保安対策を一層強化していくことを本日の合意とする」ことの提案が行われ、全員の賛成のもと終了した。

5. その他

今後、更に同規模程度の懇談会を1回開催し、まとめを行う予定。

以 上

《本件に関するお問い合わせ先》
石油化学工業協会 総務部（広報担当）
TEL：03-3297-2019